

<ミニシンポジウム>

養殖業の未来 —生産から利用・流通・市場まで—

日時・場所 9月14日(金) 9:00-12:00・第2会場(No.41)

企画責任者 前田俊道(水大校)・酒井治己(水大校)・芝 恒男(水大校)

9:00-9:05	開会の挨拶	前田俊道(水大校)
		座長: 前田俊道(水大校)
9:05-9:35	1. 養殖の可能性	佐々木 満(みなと新聞)
9:35-10:05	2. 養殖用魚類の人工種苗生産の課題	伏見 浩(福山大生命工)
10:05-10:35	3. 養殖用餌飼料の役割	三代健造(林兼産業)
		座長: 酒井治己(水大校)
10:35-11:05	4. 養殖魚の魚体処理と利用	前田俊道(水大校)
11:05-11:35	5. 養殖業の軌跡と進路	濱田英嗣(下関市立大経済)
11:35-11:55	総合討論	
11:55-12:00	閉会の挨拶	芝 恒男(水大校)

企画の趣旨

養殖魚価の低迷が養殖業者の経営を圧迫している今日、養殖業の現状と問題点について生産段階から市場(マーケット)までの広い視点で把握して、その解決策を提案するために本シンポジウムを企画する。生産段階では、養殖用

人工種苗や家魚化の必要性ならびに餌飼料について、出荷・流通段階では、利用・加工用途に応じた魚体処理方法について、さらに流通・市場における課題について講演を行い、総合討論で議論を深める。

<ミニシンポジウム>

低魚粉飼料の栄養評価と飼育魚の健康評価

日時・場所 9月14日(金) 13:00-16:40・第7会場(No.25)

企画責任者 河原栄二郎(福山大生命工)

13:00-13:05 開会の挨拶 河原栄二郎(福山大生命工)

I. 低魚粉飼料の栄養評価

座長: 山本剛史(水研セ増養殖研)

13:05-13:35 1. 低魚粉飼料の栄養評価

益本俊郎(高知大農)

13:35-14:05 2. 低魚粉飼料の実用性

濱崎祐太(スクレッティング)

II. 低魚粉飼育魚の健康評価

座長: 益本俊郎(高知大農)

14:05-14:35 1. 飼育魚の生理状態の評価

山本剛史・松成宏之(水研セ増養殖研)・鈴木伸洋(東海大院)

14:35-15:05 2. 飼育魚の免疫機能

小嶋智一(日本農産工)・河原栄二郎(福山大生命工)

15:05-15:15 休憩

III. 低魚粉飼育魚の抗病性

座長: 河原栄二郎(福山大生命工)

15:15-15:45 1. マダイの抗病性

山下浩史(愛媛水研セ)

15:45-16:15 2. ブリの抗病性

福田 穰(大分水研)

IV. 総合討論

16:15-16:35

河原栄二郎(福山大生命工)

益本俊郎(高知大農)

山本剛史(水研セ増養殖研)

16:35-16:40 閉会の挨拶

益本俊郎(高知大農)

企画の趣旨

近年、飼料原料である魚粉の価格が高騰したため、代替原料を用いた低魚粉飼料の開発が進められている。低魚粉による魚の成長低下については、タウリンの添加によって改善することが明らかにされたことから、現在では低魚粉飼料が普及し始めている。しかし、養殖の現場では低魚粉飼育

魚の抗病性については危惧されているだけでなく、実験的感染試験で抗病性が低下しているとの報告もある。そこで、本シンポジウムでは低魚粉飼料の栄養評価と飼育魚の健康評価を整理するとともに、抗病性について論議し、今後の課題を展望する。

<シンポジウム>

スケトウダラが産まれてから食卓にあがるまで：生態－社会系とその管理

日時・場所 9月17日(月) 9:30-17:30 ・第1会場 (No.43)

企画責任者 牧野光琢(水研セ中央水研)・船本鉄一郎(水研セ北水研)・廣田将仁(水研セ中央水研)・志田 修(道中央水試)・桜井泰憲(北大院水産)

9:30-9:40 シンポジウムの主旨について 牧野光琢(水研セ中央水研)

I. 産まれてから獲られるまで(生態系)

座長：志田 修(道中央水試)・船本鉄一郎(水研セ北水研)

9:40-10:10 1. 生態的特徴 桜井泰憲(北大院水)

10:10-10:40 2. 加入量の変動メカニズム 船本鉄一郎(水研セ北水研)

10:40-10:55 休憩

10:55-11:25 3. 漁獲の状況 志田 修(道中央水試)

11:25-11:55 4. 資源の状態 森 賢(水研セ北水研)

11:55-12:25 5. 資源の管理 檜山義明(水研セ北水研)

12:25-13:30 休憩(昼休み)

II. 獲られてから食卓まで(社会系)

座長：牧野光琢・廣田将仁(水研セ中央水研)

13:30-14:00 1. 漁業の管理 金子貴臣(水研セ中央水研)

14:00-14:30 2. 流通の展開 廣田将仁(水研セ中央水研)

14:30-15:00 3. 国際市場 河野政道(マルハニチロ水産)

15:00-15:15 休憩

15:15-15:45 4. 利用・加工の技術 福田 裕(水大校)

15:45-16:15 5. 調理法と栄養 芳賀みづえ(釧路短大)

III. 総合討論

座長：桜井泰憲(北大院水産)

16:15-16:35 総合科学としての水産学とは 牧野光琢(水研セ中央水研)

16:35-17:25 総合討論

17:25-17:30 閉会の挨拶 桜井泰憲(北大院水産)

企画の趣旨

スケトウダラは、その生態・資源変動等に関して幅広い研究が蓄積されつつある重要資源である。また陸の上では多くの雇用を創出すると同時に、すり身や明太子などの加工産業を支え、近年は国際市場においても重要な位置付けを占

めている。本シンポジウムでは、スケトウダラの海の中の生態から食卓に上がり消費されるまでの研究成果を集め、その関連を議論することにより、総合科学としての水産学の新たな理論的枠組みを模索する。

<シンポジウム>

沿岸資源の増殖・管理と分子生物学的手法によるモニタリング

日時・場所 9月17日(月) 9:00-17:00・第7会場(No.25)

企画責任者 有瀧真人(水研セ西海水研)・萱場隆昭(釧路水試)・安藤 忠(水研セ本部)・
藤井徹生(水研セ瀬水研)・島 康洋(水研セ瀬水研)・谷口順彦(福山大生命工)

9:00-9:05 開会の挨拶 谷津明彦(水研セ西海水研)
9:05-9:10 趣旨説明 有瀧真人(水研セ西海水研)

I. 遺伝的多様性を保持した増殖事業(マツカワを例にして) 座長:松原孝博(愛媛大)
9:10-9:40 1. マツカワの栽培漁業 萱場隆昭(釧路水試)
9:40-10:10 2. 遺伝的多様性の保持を目指したマツカワの親魚管理および交配技術
鈴木重則(水研セ増養殖研)
10:10-10:40 3. 遺伝的多様性保持の実証と放流種苗の追跡
安藤 忠(水研セ本部)・市川 卓(水研セ北水研)・美坂 正(釧路水試)

II. 遺伝解析による放流効果の把握(マーカーとしての役割) 座長:島 康洋(水研セ瀬水研)
10:40-11:10 1. 瀬戸内海におけるトラフグの放流効果と再生産寄与
片町太輔(水研セ瀬水研)
11:10-11:40 2. 日本海におけるヒラメの放流効果の把握 藤井徹生(水研セ瀬水研)
11:40-12:00 3. ガザミ・クルマエビでの放流効果の把握に向けた集団解析手法の検討
菅谷琢磨(水研セ瀬水研)・團 重樹(水研セ瀬水研)
12:00-13:00 休憩(昼休み)
13:00-13:20 4. 有明海のクルマエビ放流でのDNA解析 荒木希世(熊本県農林水産部)
13:20-13:40 5. 伊勢湾・三河湾におけるクルマエビ放流効果調査
原田 誠(愛知水試)・菅谷琢磨(水研セ瀬水研)・野口大毅((株)日本総合科学)

III. 遺伝のリスクモニタリングと低減技術の開発(広域種と地域種) 座長:有瀧真人(水研セ西海水研)
13:40-14:00 1. 栽培漁業の現場における遺伝的多様性を確保する取り組みの現状
荒井大介(水産庁)
14:00-14:30 2. 東北海域におけるホシガレイの栽培漁業
和田敏裕(福島水試)・渡邊一仁(宮城水技セ)
14:30-15:00 3. ホシガレイの管理単位と遺伝的リスク 関野正志(水研セ中央水研)
15:00-15:15 休憩
15:15-15:45 4. 神奈川県におけるマダイの栽培漁業
櫻井 繁・一色竜也(神奈川水技セ)・有瀧真人(水研セ西海水研)
15:45-16:15 5. マダイの遺伝的集団構造と人工種苗放流影響シミュレーション
谷口順彦(福山大生命工)

IV. 総合討論 座長:有瀧真人(水研セ西海水研)
16:15-16:55 演者らによる意見交換と総括
16:55-17:00 閉会の挨拶

企画の趣旨

我が国周辺の水産資源の多くは低位水準であり、種苗の大量放流による魚介類の増殖が回復策の一つとして実施されている。一方、これらの事業では人工種苗による遺伝的多様性のかく乱が危惧され、遺伝的なリスクのモニタリング

やリスクを軽減する技術の開発が求められている。本シンポジウムでは、近年技術の著しい進展が認められる分子生物学的手法を用いた増殖事業の実態把握とリスク管理について総括すると共に今後の課題を展望する。

周防灘の環境と水産を考える－瀬戸内海西部に残った漁場の危機と今後の展望

日時： 2012年9月14日（金）13:00～17:30

場所： 第1会場（No.43）

企画提案者：山本民次（広大院生物圏科）・児玉真史（水研セ中央水研）・清野聡子（九大院工）

プログラム

- 13:00～13:05 開会のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・水産環境保全委員会委員長
河野 博（海洋大）
- 13:05～13:15 趣旨説明・・・・・・・・・・・・・・・・山本民次（広大院生物圏科）
座長 今井一郎（北大院）
- 13:15～13:40 周防灘の物理的環境特性－豊前海の貧酸素化に関わる底層環境調査から－
・・・・・・・・・・・・・・・・安田秀一（水大校）
- 13:40～14:05 周防灘の水底質環境の特徴・・・・・・・・山本民次（広大院生物圏科）・ジャ
ハンギル・サルカル（バングラデシュ工科大）・和西昭仁
（山口水研セ）・川口修（広島総研水海技セ）
- 14:05～14:30 周防灘の海洋環境の変化と漁業生産の変遷・・・和西昭仁（山口水研セ）・大形
拓路（福岡水海技セ）・三代和樹（大分水研浅海）
- 14:30～14:40 -----休憩-----
座長 児玉真史（水研セ中央水研）
- 14:40～15:05 モデルから推測される周防灘の浮遊低次生態系の構造と生産性
・・・・・・・・川口 修（広島総研水海技セ）・山本民次（広大院生物圏科）
- 15:05～15:30 周防灘のアサリ資源崩壊と個体群の現状
・・・・・・・・手塚尚明（水研セ瀬戸内水研）
- 15:30～15:55 干潟の餌環境の指標としてのアサリ資源の変動が魚類生産に及ぼす影響
・・・・・・・・重田利拓（水研セ瀬戸内水研）
- 15:55～16:05 -----休憩-----
座長 田中丈裕（海洋建設株）
- 16:05～16:30 九州周防灘沿岸の水資源と地形基盤の管理の課題
・・・・・・・・清野聡子（九大院工）
- 16:30～16:55 周防灘沿岸の港湾・海岸における環境対策
・・・・・・・・上島顕司（国交省九州地整）
- 16:55～17:25 総合討論
- 17:25～17:30 閉会のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・水産環境保全委員会副委員長
大嶋雄治（九大院農）

企画の趣旨

瀬戸内海の西の端に位置する周防灘は、東に位置する大阪湾と比べると、窒素やリンの陸からの流入負荷は約1/10と少なく、瀬戸内海一律に課せられてきた水質総量規制の影響で貧栄養化が顕著である。周防灘には瀬戸内海を代表する干潟が拡がり、アサリの漁獲量はピーク時に比べて3ケタほども低下していることが知られている。水質は、透明度の上昇や赤潮発生件数の減少などが示す通り改善されているが、底質は有機物含量が高く、必ずしも良好とはいえない。周防灘は大阪湾などに比べれば、埋立などの開発が盛んに行われたわけではないが、港湾・航路の維持のための浚渫等がなされてきた。近年の漁業生産の低迷は、水質・底質、あるいはそれらによる

生態系構造の変化に基づくものと考えられるが、こうした変化に対して、地形改変や水質総量規制などの人為的影響がどの程度影響を与えたのかについての科学的な根拠は十分に示されていない。このような中、廃棄物処分のための埋立の拡大も予定されており、行政にとっては環境対策や統合的沿岸域管理が求められている。この研究会では、地元の水産試験場や研究機関、大学などから周防灘の環境と漁業の変遷と現状についての話題提供を戴くことで、周防灘の環境と水産について現状認識を深めるとともに、環境修復による水産業の復活を主眼にした統合的管理のための議論の場とすることを目的とする。

<平成 24 年度日本水産学会秋季大会 漁業懇話会講演会>

「元気な水産業のために—6 次産業化の可能性」

主催 日本水産学会漁業懇話会委員会

日時 平成 24 年 9 月 14 日(金) 13:00-17:30

場所 唐戸市場大会議室 (〒750-0005 山口県下関市唐戸町 5-50)

企画責任者 石川智士 (地球研)、宮田 勉 (中央水研)、山下秀幸 (JAMARC)

濱野 明 (水大校)、有元貴文 (海洋大)

13:00-13:10	開会挨拶・趣旨説明	石川智士 (地球研)
第 1 部 ケーススタディから学ぶ新しい水産業	司会 宮田 勉 (中央水研)	
13:10 - 13:40	地魚認証制度を活用した水産振興	有路昌彦 (近大農)
13:40 - 14:10	山口県における 6 次産業化を活用した取り組み	梶本久繁 (梶八商店)
14:10 - 14:40	低利用資源を活用した 6 次産業化	鈴木裕己 (㈱プロ・スパー)
14:40 - 15:00	質疑応答	
15:00 - 15:10	休憩	
第 2 部 研究・行政分野からの情報提供	司会 石川智士 (地球研)	
15:10 - 15:40	漁業協業化による沿岸漁業の新展開	馬場 治 (海洋大)
15:40 - 16:10	漁船漁業の新たなビジネスモデル構築に向けて	山下秀幸 (JAMARC)
16:10 - 16:40	魚離れの実相とこれからの希望	上田勝彦 (水産庁)
16:40 - 17:00	休憩	
第 3 部 総合討論	司会 濱野 明 (水大校)	
17:00 - 17:30	宮田 勉 (中央水研)、有路昌彦 (近大農)、梶本久繁 (梶八商店) 鈴木裕己 (㈱プロ・スパー)、馬場 治 (海洋大)、山下秀幸 (JAMARC) 上田勝彦 (水産庁)	
17:30	閉会挨拶	石川智士 (地球研)

企画の趣旨

日本の水産業は、資源状態や漁場環境の悪化、消費者の魚ばなれ、漁業者の高齢化等の様々な問題を抱えている。これらの国内問題に加え、世界的な水産物需給の増大、燃油価格の高騰等といったグローバル化に伴う問題への対応も迫られている。このように水産業を巡る状況は厳しいが、沿岸部における地域社会の維持・発展は、水産関連産業による就労機会の創出が不可欠である。

日本の消費者の動向をみると、これまでのようにマグロ、サケ、エビなどの高級水産物を大量に輸入・消費するだけでは満足が得

られない価値観の変化が伺える。

以上に述べた諸状況を前提とすると、各地域の多種多様な水産物を利用した商品開発、新たな販売開発が求められており、既にそのような試みが各所で始まっている。

そこで、漁獲 (1 次産業)、加工 (2 次産業)、販売や観光 (3 産業) といった複数の業種・業界が連携することで新たなビジネスモデルを提供する 6 次産業に着目し、水産業における 6 次産業の成功事例や試みについて議論するとともに情報を共有し、水産業の新たな展開に繋がりたいと考え、本講演会を企画した。

平成 24 年度日本水産学会水産増殖懇話会第 1 回講演会
「最近のクラゲ研究とその水産増養殖への展望について」

日時 平成 24 年 9 月 14 日 (金) 13 : 00 ~ 17 : 00
場所 水産大学校 共同研究棟 4 階 多目的会議室

プログラム

開会の挨拶	13 : 00 ~ 13 : 05
座長 三宅裕志 (北里大学)	
1. 水産増養殖とクラゲ研究	13 : 05 ~ 13 : 30
上野俊士郎 (水産大学校)	
2. クラゲの平衡石を用いた日齢推定	13 : 30 ~ 13 : 55
河村真理子 (京大フィールド研)	
3. 大型クラゲ類の共生生物とその種間関係	13 : 55 ~ 14 : 20
近藤裕介・大塚 攻 (広島大学)	
4. クラゲと魚類の戦略的互惠関係	14 : 20 ~ 14 : 45
益田玲爾 (京大フィールド研)	
休憩	14 : 45 ~ 15 : 10
座長 上野俊士郎 (水産大学校)	
5. 鉢クラゲ類の生態学的研究の新展開	15 : 10 ~ 15 : 35
三宅裕志 (北里大学)	
6. クラゲの機能性食品としての利用	15 : 35 ~ 16 : 00
原田和樹 (水産大学校)	
7. クラゲの毒に関する研究の現状	16 : 00 ~ 16 : 25
永井宏史 (東京海洋大学)	
座長 上野俊士郎	
総合討論	16 : 25 ~ 16 : 55
閉会の挨拶	16 : 55 ~ 17 : 00

企画の趣旨

ミズクラゲやエチゼンクラゲの大量出現による漁業被害はマスコミ報道等で一般にもよく知られ、クラゲは有害生物というイメージが定着している。しかし、今回は有害生物という側面に限らず、生態、水圏生態系における機能や食品等への利用等の多角的な最新のクラゲ研究の紹介と、研究成果の水産増養殖への展開についての意見交換を通して、水産増養殖におけるクラゲの新しいイメージの構築を期待する。

<理事会主催シンポジウム>

東日本大震災からの復興・復旧への日本水産学会の取組の経過と展望
－何が出来たか、何が出来なかったか、これから何をすべきか－

日時・場所 9月17日(月) 13:30-17:30 ・第2会場 (No.41)
企画責任者 和田時夫 (水研センター)

プログラム (予定)

開会挨拶：会長 (北里大学)	渡部終五	13:30-13:40
趣旨説明：副会長 (水研センター)	和田時夫	13:40-13:50
話題提供1：日本水産学会 (政策委員会) の取組：	黒倉 壽 (東京大学)	13:50-14:20
話題提供2：日本水産学会東北拠点の活動：	佐藤 実 (東北大学)	14:20-14:50
話題提供3：他機関の活動と日本水産学会との連携－1：小谷祐一 (水研センター)		14:50-15:10
話題提供4：他学会の活動と日本水産学会との連携－2：石丸 隆 (東京海洋大学)		15:10-15:30
休憩		
話題提供5：東日本大震災災害復興支援検討委員会の活動方向と日本水産学会の将来 構想：	和田時夫 (水研センター)	15:45-16:15
パネルディスカッション：		16:15-17:15
パネリスト：黒倉 壽 (東京大学)、鷺尾圭司 (水産大学校)、東海 正 (東京海洋大学)、 佐藤 実 (東北大学)、大越和加 (東北大学)		
司会：和田時夫		
まとめ (閉会)：副会長 (北海道大学)	桜井泰憲	17:15-17:30

企画の趣旨

昨年3月11日の東日本大震災の発生にあたり、日本水産学会は東北支部や政策委員会を中心に、発生の直後から被災地の水産業や水産・海洋関係の復興・復旧のため緊急的な調査活動や各種の支援活動を展開してきた。大震災の発生から1年半が経過した今、改めてこれまでの取組の経過を総括し、成果とともに問題点を整理することが必要である。その上で、今後の取組の方向を展望し、所要の体制を組んで取組むことが望ましいと考える。

大震災からの復興・復旧への取組は、日本水産学会の当面の主要課題の一つであり、学会の公益活動を考える上での試金石でもある。また、来年に創立

80周年を迎える学会の将来構想とも密接に関連している。このため、日本水産学会は、この4月に会長をヘッドとする「東日本大震災災害復興支援検討委員会 (特別委員会)」を設置し、そこでの検討を軸に、学会として組織的、計画的に対応を進めていくこととした。

そこで、このシンポジウムを通じて、大震災関連の学会のこれまでの活動を振り返るとともに、この委員会を軸とした学会の大震災対応の今後について考えてみたい。さらに、公益法人化と学会創立80周年を契機とした学会の将来構想を考える一つの出発点としたい。